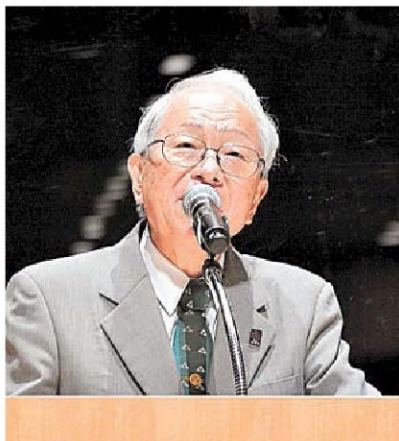


軍師雪斎の人づくり紹介

静岡徳川みらい学会が講演会



軍師雪斎の人づくりを語る
小和田氏＝静岡市清水区

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する徳川みらい学会は15日、本年度の徳川家臣団大会・第1回講演会(静岡)をテーマに静岡大名譽教授の小和田哲男氏ら

が登壇した。

小和田氏は、今川義元の軍師雪斎の人づくりを解説した。雪斎が今川領を三河に広げる大きな役割を担い、安城の戦いを経て人質交換で取り戻した松平竹千代(のちの徳川家康)の教育係を買って出た経緯を紹介。「竹千代の才能を見込み、今川家の将来を支える人材になるよう手ほどきした」と説いた。

竹千代が8歳から人質として過ごした駿府で兵法書を読み習ったのを示す史料、武経七書に記された名言にも触れ、「竹千代はこれから書から兵法だけでなく、戦乱の中でいかに生きるべきかも学んだ」と語った。

会津松平家14代当主の松平保久氏も「会津の義、日新館の教育」の演題で講演した。会場には徳川家臣の子孫など約300人が来場した。(清水支局・栗原広樹)